

添田オープンスクール 最終発表

C班

代表

近畿大学

1年

服部拓哉

副代表

近畿大学

1年

大塚友貴

班員

九州工業大学

4年

照屋惇一

九州工業大学

4年

頼近惇志

目次

- ▶ テーマ
- ▶ テーマ選択理由
- ▶ 概要
- ▶ 将来のビジョン
- ▶ 現状報告
- ▶ 今後の課題および解決策
- ▶ 今後の予定
- ▶ まとめ

テーマ



学生の出会いの場 ~添田町~



添田町を舞台とした
学生同士の出会いの場の提供

テーマ選択理由(1)

現状

- 入込客数が減少している
- 若年層の人口が減少している
- 英彦山など美しい自然がある
- “出合い・交流”機会が少ない

添田町

学生

テーマ選択理由(2)

添田町

1. 添田町への**集客数増加**を図る
 - i. 添田町の活性化につながる
2. **学生**(若者)をターゲットに絞る
 - i. 学生(若者)が添田町を知る機会となる
 - ii. 若者が数多く訪れることで街に活気が出る

テーマ選択理由(3)

学生

3. “出会い・交流の場”の提供
 - i. 他大学との交流が可能
 - ii. 学生ひとりひとりの視野拡大につながる
 - iii. 新鮮かつ良い刺激となる

提案企画

山コン

- 参加対象：学生
- 山登りや懇親会の時間を他の学生と共にする
- 添田町、英彦山を舞台とした“出逢い”の提供



企画書を作成

企画に向けた活動

- アンケート調査
- 役場の方への相談
- シミュレーション

企画に向けた活動~アンケート調査~

- 対象：筑豊地区の学生200人
- 内容：山コンについて

1. 認知度

→ 0%

新たな試みとして、添田町活性化の糸口となりうる

2. 企画内容

→ メイン：登山, 景色観覧
その他：BBQ, お抹茶体験

登山だけでなく、様々な可能性がある

企画に向けた活動~役場の方との相談~

○山コン開催による今後の見通し/活動

- 宿泊施設での学生向けプラン検討の可能性

山コンによる相乗効果の期待

- 英彦山のポイントカード発行

特典付与による訪れる回数増の期待

- 学生主体によるイベントおよび英彦山での出店

注目度上昇の期待, 若者の添田町への来訪の期待

企画に向けた活動~シミュレーション~

- 実施日：2/23(月)
- 参加人数：4名
- シミュレーションによる確認事項
- 1. 体力の問題
→苦難もあるが、それ以上の楽しさがある
 2. けがの問題
→救急道具の準備，登山における保険への加入
 3. SNSによるアイスブレイクの問題
→自己紹介，ストレッチでの交流の実施

将来のビジョン

- 継続的な山コン実施による添田町の知名度の上昇,
出会いの場としてのブランド化



集客数の増加および、長期的な経済効果

- 山コン参加者や添田町PRによる若者の添田町への定住



添田町の人口増加, 少子化の改善につながる

今後の活動

1. アンケート調査

- クロス集計の考慮
- 企画内容の充実化

2. 山コンの企画検討および提案

- 広告および募集方法の検討
- 企画書/予算の見直し, 作成

3. 山コンの実施

- 参加者への意見調査
- 課題の把握

添田オープンスクール 最終発表

C班

代表

近畿大学

1年

服部拓哉

副代表

近畿大学

1年

大塚友貴

班員

九州工業大学

4年

照屋惇一

九州工業大学

4年

頼近惇志